

R6 デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証結果

事業名 (R6年度実績額) (交付金の種類) (計画期間)	重要業績評価指標 (KPI)				事業概要・令和6年度の取組内容	効果検証結果		
	指標	R6目標値	R6実績値	達成度		事業効果及びその判断理由	今後の方針及びその判断理由	
AIオンデマンド交通システム導入事業 (53,279,249円) (デジタル実装タイプ) (R6~8年度) ※交付金はR6年度のみ	乗車人数	8,100 人	3,813 人	47.1%	<p>AIオンデマンド交通「チョイソコかりんちゃん」の導入</p> <p>【チョイソコかりんちゃんの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の予約があった時にだけ運行する乗合型デマンド交通 ・AIを使い利用者を効率よく目的地まで輸送する。 ・事前に会員登録をし、利用する際は電話かインターネットで乗車予約ができる。 <p>【導入に伴う取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者パンフレットの全戸配布を令和6年8月に実施 ・専用のプリペイドカードを販売することで、利用者が現金よりもお得に、かつ手軽に決済できるシステムを導入した。 ・令和6年10月から令和7年9月までをテスト運行期間と定め、利用者を増やす様々な取組を行った。 ・令和6年10月から令和6年11月までを無料運行期間と定め、会員数の増加を図った。 ・令和7年2月から3月までは、土・日曜日にも運行し、その効果の検証を行った。 ・出前講座（地元説明会）を計21回開催し、443名の参加があった。 	<p>【外部検証前 担当課判断】</p> <p>③課題解決に効果があった</p> <p>↓</p> <p>【外部検証委員会判断】</p> <p>③課題解決に効果があった</p> <p>↓</p> <p>【担当課最終判断】</p> <p>③課題解決に効果があった</p> <p>◎担当課最終判断理由</p> <p>令和8年4月に予定されている現行のかりんちゃんバスの運行再編(減便)に伴い、チョイソコかりんちゃんは、これを補完する施策として位置付けられている。現時点では現行のバスが通常通り運行しているため、本サービスが代替手段として広く認識されておらず、乗車実績に繋がりにくい状態になっている。令和6年度におけるチョイソコかりんちゃんの乗車人数目標は、全3台の車両において1日当たり各20人程度の乗車を想定した年間8,100人であったが、実績は3,813人ととどまり、乗車人数の向上には一定の課題がある。</p> <p>一方で、令和7年3月末時点における会員登録者数は1,270名に達し、毎月着実な増加傾向を示していることから、本サービスに対する認知度は徐々に向上しているものと考えられる。また、利用者アンケートにおいては、「自由に出発時間が選べて便利である。」、「路線バスより短時間で目的地に着でき、使いやすい。」などの好意的な意見があることから、密着した公共交通サービスとなるよう検討を重ねることで、本システムの改善を行っていく。</p>	<p>【外部検証前 担当課判断】</p> <p>②事業内容の見直し(改善)</p> <p>↓</p> <p>【外部検証委員会判断】</p> <p>②事業内容の見直し(改善)</p> <p>↓</p> <p>【担当課最終判断】</p> <p>②事業内容の見直し(改善)</p> <p>◎担当課最終判断理由</p> <p>今後は、実際の利用が多く想定される高齢者層への対応を丁寧に進めていくことが重要である。高齢者の多くは、これまで決められた時間や場所で乗降する現行のバスに慣れており、予約制のAIオンデマンド交通に対して抵抗感を持っている。このような方が初めて利用するまでのハードルを下げ、出前講座などを積極的に開催し、利用方法をわかりやすく伝えることで、不安を解消し、安心して利用できる環境づくりを進めていく。</p> <p>公共交通離れの解消や、利便性の高い公共交通への移行といった課題の解決は、システムの導入にとどまらず、実際の利用を促進し、乗合率を高めていくことで初めて可能となる。委員から指摘のあったバス停の設置基準などについても考慮し、今後の施策に反映していく。</p> <p>引き続き利用者の声を丁寧にヒアリングすることで、利用者のニーズを正確に把握・分析していく。また、運行事業者とも密に連携し、最適な車両台数・運行時間等の検証を継続することで地域に密着した公共交通サービスとなるよう検討を重ねることで、本システムの改善を行っていく。</p>	
スマートフォンアプリ又はWeb予約件数	4,200 件	1,363 人	32.5%					
解決を図る課題	乗合率	1.3 人	1.22 人	93.8%				
<p>・既存公共交通の路線の分かりづらさ、公共交通離れの解消。</p> <p>・自家用車への依存度の低下と持続可能で利便性の高い公共交通体系の構築。</p> <p>・公共交通に対する市民満足度向上。</p> <p>・交通弱者（特に高齢者）の移動手段の確保。</p>	AIオンデマンド交通に対する満足度	60 %	62.4 %	104.0%				
	高齢者の免許返納者数	125 人	175 人	140.0%				
将来的に実現したい地域像	外部検証委員からの意見等 (要約・抜粋)							
行政・市民・公共交通関係組織等との連携による本事業のPDCAの実施により、市民のみならず観光客等の来訪者も含め、誰もが移動手段に不便さを感じない持続可能な公共交通が構築された地域を実現する。さらには、本市の第六次総合計画における重点目標である「みんなに愛のあるライフステージ実現」及び「気持ちいい、心地いいまちづくり」への実現につなげていく。								